

市ではかねて労働省に申請中
であつた失業対策事業がこの
程認可になつたので、去る八
日から石岡職業安定所の紹介
による失業労働者を雇傭して
事業を開始した。一日の雇傭
人は二十名である。
本年度の事業は金丸町、幸町
土橋町の道路側溝工事（延長
三百米、工費約五十万円）及
東大橋、三村、井闘の幹線道
路改良工事（延長二、八〇〇
米、工費約一七一万円）であ
る。
就労希望者は安定所へ
この失業事業に就労を希望す
る方は石岡職業安定所へ申込
んで下さい。
その資格は次の通りです。
①失業者であること
②主たる生計の維持者である

な過機にいたるまで四百

節的にも暑い時期なので、
休みをどう過ごさせるかは
母さん方に負わされた大き
い課題です。

とに多くのお子さんをもつ
母さん方には夏休みは、な
方がいい、という苦情を耳
することもありますが、心
え一つで有意義に夏休みを
させることができるのでは
いでしょう。

ことがあります。
一番多いのは水死で、お母さんの方のじよつとした注意で、未然に防ぐことができると思
います。また伝染病や暴飲暴食、寝冷等の健康管理や風紀上の指導も適切な手を打つて事故のないようにしてい
ます。期間にさせることは、最もよいです。

◆海に山に心と身体を鍛え、
家族連れで旅行したり、家庭
生活を通して礼儀作法のしつ
けをするのによい機会ですか
ら日頃の生活と体験をとり入
れて、心身共に健全な子供に
してやりたいものです。九月
の始業式には日焼けした元気
な顔で登校させて下さい。

A black and white photograph of a long, single-story building with a gabled roof and a prominent entrance on the left side.

当市出シ山へかねて新築工事中の石岡小学校杉並分教場は七月五日竣工検査を終りいよいよ十一日から授業を開始することとなつた。来年度から一、二年生收容一千八百を收容する教室二、職員室、便所等延坪數七一坪五合で工費約

井々々三小北東谷根茨田富々々金大香背國々々若中町
非根大 小
関 村戸本橋向当木島田 丸 路丸木分 松町名
菊木中督新細大閻圓永海岡幕高山山大入赤飯浜高坂沢森死
間 老 和
地塚島谷井塚町部井沢田内野下田 田 沢村 村本田戸亡
まとかはきこまみはみさゆ幸 い介清う周 美 は好文者
上 三太 四
つよつるようさよる子くり一良し郎郎ら予実知清る江郎
年
八七七六四五八七八 三四五三七五四九一 五七八 七
八九五七三二八五〇五六九〇五三一八三六〇二四八〇八 令

一日の雇傭一千名

失業対策事業始まる

(3) 働く意志と能力を有する者であること

夏休みとお母さん

市觀光美術展
とき 八月一日より六日迄
ところ 香丸 みひすや階上
出品 市内名勝旧蹟を画く
市觀光美術展
油絵、水彩約三十点
石岡バレット会
市觀光協会

引越をした
住民登録の
届出をお
忘れな
く

◇出生の部
タ井リ石リ三中東東高染宮基根大貝ク富守リ金大泉クク国青クク若守幸元宮町名
津田大石谷小眞地下閑川村川中橋浜谷部沢当津地田横丸路町分木松木町地父之名
昭晴利四和節一鐵誠登正三芳都正久定利國敏明德守忠貞守志克茂昇勇吉章一輝章明圭保昌啓
太之津海彦郎助夫郎雄一泰好広郎成助男光夫助信雄男現次美二明一郎雄
長貳長四長參貳長長ク貳貳參長リ貳貳參參貳四貳長長貳クク長長長長長
長女女男女女男女男男女男男女男女男女男女男女男女男女男女男女
小堀柏野小福山大浅齊高佐川高中小櫻新甲物眞浅鬼竹飯上眞豊高片狩大生飯石久沢豊
松越村村林田口橋野藤野並野島塙村田野家野沢村田石家田野岡谷和井村川保田
崎寺由富由代田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田
タキシ敏ク倫榮弘昌光明教義孝充一秀健和武圭操友泰裕克典洋充末一正好江郎野
子と見行子子子之子子之子子夫子夫浩清昭子子子子子子子子子子子子子之治寒夫美已野
子

体育施設を着工……大学側
開墾を申請……地元農家

け多數の失業者を吸收し、その生活の安定と経済の興隆を図ることが目的で労力費は国が三分の二、市が三分の一。資材費は国が三分の一、市が三分の二。事務費は国が全額負担するものである。

労力費の占める割合は土地整備事業六五%、街路整備事業五五%、道路整備事業五五%などで、当市に認可された種目は道路整備事業で、吸收人員は一日二十人年間にして六千人である。

「テニス」コート

危ない!!

人 仇 者 募 集 之

◇出生の部

町名	父之名	続柄	出生兒
宮下	啓昌	長男	菊池俊彦
元眞地	雄	長女	吉水
木町	昌	吉水	
圭一郎	保	恵子	
長男	ク	恭子	
幕内	蕃	洋野	
潘巳	巳	津野	

し常陸国の文化の中心地であつて今を去る千七百年前からつての史蹟に豊んでゐる。

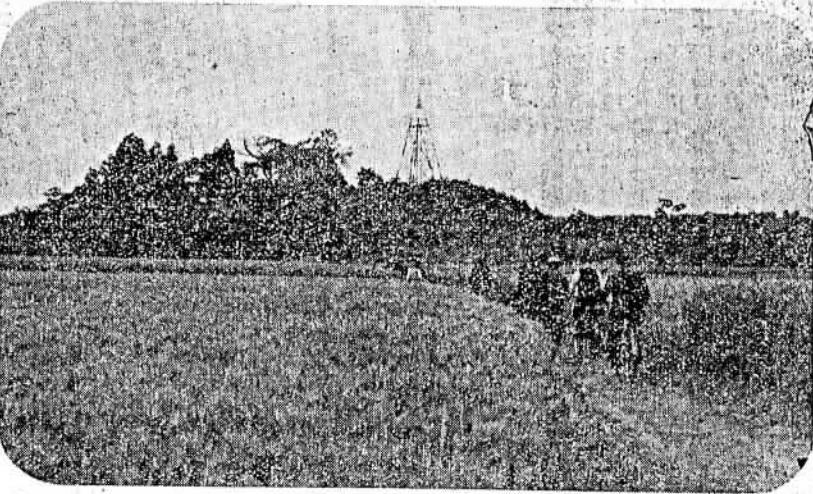
(右上) 船塚山古墳
茨城国造の始祖の古墳『崇神天皇の御代』ともいはれ西面の前方後円墳で主軸は長さ一八〇余米あり、未發掘なので学界でも話題にされている。

(右下) 盛賢寺(井関)の仁王
本寺は元錄年間那珂郡額田村から移されたといふ。仁王はこの山門に安置され、鎌倉時代の運慶の作といわれている

(左上) 尼寺ヶ原
天平十三年に建てられた常陸国分寺の尼寺で、その昔豪族佐竹氏と大槻氏との戦に焼かれたが、当時の礎石が残つている。

(左下) 正徳年間の頃、染谷村、村上村と平村(旧石岡)とは糀珠草刈場のこととで論争が絶えなかつたらしい、当時の名主連が一役買つて出てトツテもない大きいこの和解会議の頃末書(裏面図入)を作つたらしい。

史蹟を訪ねて



石岡市資金あつ旋協同組合

この度小額金融の対策として石岡市資金あつ旋協同組合を設立することになりましたので、之が創立総会を左記により開催致しますから公告いたします。

石岡市資金あつ旋

地区内商工裝者立
家花野青
田塚村木
太多秀澤
兵三之助
衛次助吉

一、創立総会の開催の日時及場所
記
1、日 時 昭和三十年七月二十五日午前十時

二、提出議案
第一号議案 石岡市資金あつ旋協同組合定款制定
に關する件
第三号議案 昭和三十年度石岡市資金あつ旋協同

第三号議案 昭和三十年度石岡市資金あつ旋協同組合收支予算議定に関する件
第四号議案 創立当初石岡市資金あつ旋協同組合設員選任に関する件

三、三款定
事業十面記 改正を算定の既定より次の通り
に委任方承認の件
された場合其の修正決定を提起入総代

昭和三十年度事業計画案

從來中小企業の金融施策として國及び県が種々の制度機関を設けて融資の円滑化を図ってきたが、十万円以下の小額融資を必要とする小規模企業者についての金融の路は僅かに国民金融公庫のみが活動しているに過ぎず、一方多額の資金量を持つ正規の金融機関はこれら小額金融取引について種々な点でその融資は相当困難な実状にあつた。このような事情から十万円以下の小额金融について唯一の対策として自治金融制度の実施により設立された本組合はここに中小企業者のよき相談相手となつて、その施策の拡充に努め以て市内小規模企業者の主旨的な経済活動を促進すると共に各位の信頼と期待に応えその使命に万全を期するものであります。

融資協会の別途上を五〇万円が計上され、保険率も八〇%で融資斡旋額も一〇あるのでこの範囲の資金の有効なるとと共に設立当初より新規の申込の極みが活動しておる。一方多額の取引につい小額規模企業の制度機関化を図つて、事業計画案

資金あつ旋協同組合 三十年度收支予算案		一、支出の部		二、収入の部		五〇万円が計上され、信用保険率も八〇%であり、又融資斡旋額も一〇万円迄であるのでこの範囲内に於ける資金の有効なる利用を図ると共に設立当初なるに鑑み新規の申込の極力勧誘に	
会員費	会議費	人件費	補助金	会員費	入金	旅費	旅費
審査委員会費	一〇千円	消耗品費	三〇千円	旅費	八〇千円	通信運搬費	四〇千円
印刷製本費	一千円	旅費	五千円	旅費	二千円	通信運搬費	二千円
郵便運送費	八百円	旅費	三千円	旅費	二千円	郵便運送費	二千円
計	八〇千円	旅費	五千円	旅費	二千円	郵便運送費	二千円

三十一年度收支予算案	
一、收入の部	
補助金	五〇千円
雜收入	三〇千円
計	八〇千円
一、支出の部	
審查委員会費	一一〇千円
旅費	一〇〇千円
人件費	四〇千円
消耗品費	五千四百円
印刷製本費	三千四百円
通信運搬費	二千四百円
雜費	八千四百円
計	八〇千円

時間励行の発表会

三、その他

○来訪者のエクセントとして
①午前中は十時頃に
②午後は一時以降に
③特に農家からの訪問者は
仲々用件を切りださない
手取り早やに用事を済ませ
せるよう。

○時間に余裕があれば何を
たいかに対し

①勉強したい
②趣味をいかしたい
③好きな本を読みたい
などの意見を発表された。
なお(1)生活に計画法をもたらす
(2)とくに時間で仕事をするの
でなく自分の時間を活用する
③家庭の合理化は家事の合理化
からなどと申合せ各人の自
覺を喚起した。